

西大和学園報

創刊号
1991. 12. 7
発行
西大和学園
印刷
共同精版KK

広報の充実をめざす

—『学園報』の創刊にあたって—

理事長 田野瀬 良太郎

本学園は、昭和61年共学の高等学校を創設し、2年後の63年には

を掲げ常に教育の充実に努めてまいりました。

最初わずか21名で出発した生徒数も、

現在中・高で約1400名もの生徒が

在籍しており、すでに92名の卒業生を

送り出しました。お陰様で今春三期生

315名が卒業、国公立大学へ107名、関関

同立179名を含む473名の私立大合格者を



六か年一貫教育で男子の中学校を併設して、開校以来「次代を担う高い理想と豊かな人間性を持った生徒の育成」

随想

「時間」について

—大学受験を目指す諸君へ—

学校長 森 井 康 雄

大学受験を

目前にした生

徒諸君には、

深まりゆく秋

とともにこの

時期の重要性を自覚して、毎日の生活を充実させていることだろうと思います。



かつて私も、受験時代の今頃の季節

には、ああ今がせめて夏休み前であっ

たらと思ひ、受験一か月前には、せめ

てあと三か月の時間が与えられればと

しきりに焦燥感を覚えたことを思い出

します。たしかに、三か月は一か月に

くらべて長く、半年にくらべれば短い

出すことができました。これも生徒達の努力は申すまでもありませんが、ひとえに保護者各位のご理解とご尽力の賜物と感謝申し上げます。

今年、開校して満5年が経過し、

6年目に入りました。これまで草創期

の5年間は、言うなれば進学校をめざ

してがむしやらに坂道をかけ登ってき

たという思いがします。常に時代のニ

ズに応え、合理性を追求した教育内容

が評価され、ようやく県内外に「西大

和学園」の存在が知られるようになり

ました。私は、これまでの取り組みを

礎に十周年に向け、さらなる飛躍の年

にしたいと考えております。その意味

で特に学園の広報活動を充実させ、学

園をより一層ご理解いただけるように

したいと願っております。

といえるのですが、そうした物理的時

間の長短と、その時間内になし得る勉

強量とを反比例させることは一見不可

能と思われがちであるけれども、私は

可能であると信じたいものです。時間

は時計によって測ることができると

しても、気持ちの持ち方次第で時計では

決して測れないこともあることを心に

銘じていただきたいのです。

今、この時期に過ぎ去った時間を嘆

かず悔いず、諸君が手中に握っている

現在と未来を充実させるために、残さ

このたび学園の広報活動の一環として、この『西大和学園報』が創刊されますことはまことに意義深く、同慶にたえません。

現在、学園では十周年に向けて施設

の拡充と充実をめざして県下最大規模

の学園食堂と柔剣道場が年内にも完成

予定で工事が進められています。また

来春4月には遠距離通学生待望の男子

寮（160名収容）がオープン予定で、人

格教育の場としても期待されておりま

す。

『西大和学園報』は、学園情報を皆

様にお伝えする「校務報」として、学

園と皆様を結ぶかけ橋となり、また情

報交換の場として充実したものになる

ことを願ってやみません。

れた時間を大切に一刻一刻全力を投入

してほしいのです。一日24時間の生活

をより効率的におくるかを考えたなら

ば、現在の生活がまだ間延びした時間

の過し方であることに気付くでしょう。

私達は、不可能を可能にする気力や努

力も大切ですが、何よりも可能である

はずなのに不可能なことと決め込んで

しまうことを最も心しなければならな

いと思うのです。そしてあせらず有効

にとりくんで見事志望校に合格される

ことを期待いたします。

施設の充実

学園は建設ラッシュ

平成3年、学園は開校6年目を迎えた。10年を一つの区切りと考えると、その前半を終え丁度後半に入ったところである。理事長がこの年を「さらなる飛躍の年にしたい」と述べているように、学園では、生徒数の増加にともない環境整備をめざして施設の整備・拡充のための工事が繰り広げられている。すでに中学棟の増築工事は8月に竣工し、来春1月には、県下最大規模の柔剣道場(2F)と学園食堂(1F)がオープンする。また4月には男子寮もオープンの予定で現在工事が急ピッチで進められている。まさに3年は、学園にとって建設ラッシュの年といえよう。

柔剣道場(2F)・学園食堂(1F)の新設

生徒数の増加にともない、学園食堂も体育館東隣りに建設中の柔剣道場(延べ床面積1779、554㎡)1階に移転、平成4年1月にオープンする。従来の150席から350席収容の規模に拡大され、県下で最大規模の学園食堂となる。

外壁は石目調、内部はR柱に半円の窓、個性的で学園食堂というよりレストランというイメージ。さらに広い渡り廊下やテラスは憩いの場として活用でき、オープン後は放課後でも軽食が取れる。現在1月オープンに向け新学

園食堂の愛称を募集している。

第二体育館を兼ねた柔剣道場は、現在工事中の学園食堂2階部分にでき、上壇をもつ本格的な柔剣道場として県下で最大規模となる。

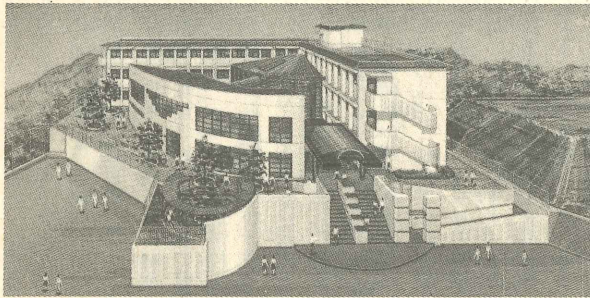
現在、中学の体育で剣道が取り入れられているが、完成により平成4年から高校の体育に柔道が正課として加わる。文武両道をめざし武道によって心身を鍛えるためのふさわしい施設が誕生する。

男子寮の建設

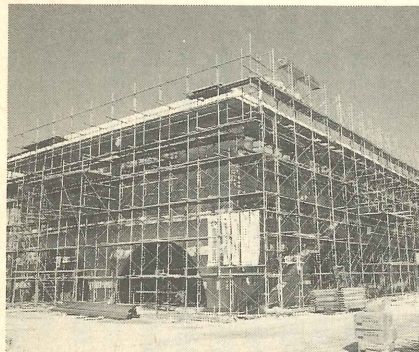
年々通学範囲も広がり、現在兵庫県や三重県から2時間掛けて通学する中、

高生がいる。こうした長距離通学生や帰国子女にとって待望の男子寮(延べ床面積2092、75㎡)が平成4年4月にオープンする。

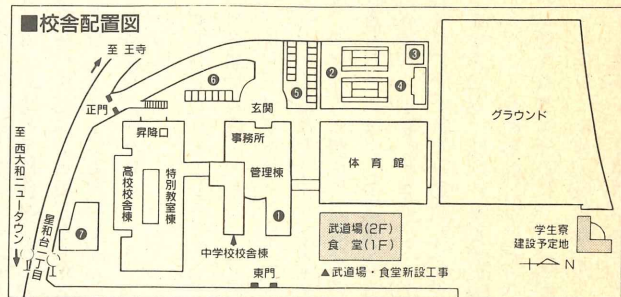
学園の敷地内、グラウンドの北東部分に建設中で、2階建ての管理棟と3階建ての宿舍棟を渡り廊下によって結ぶ構造。2、4人部屋(高校向)19室と10人部屋(中学向)8室、学習室、談話室、ホール、大浴場、洗濯室、事務室、教員宿直室、寮母室(食堂は学園食堂を利用)等を備え156名収容できる。寮の完備は、親元を離れて学園で



男子寮完成予想図



柔剣道場、食堂新設工事



- ①多目的ホール(2F) ②テニスコート ③倉庫 ④部室棟 ⑤駐車場 ⑥駐輪場

の勉学を志す生徒の人格教育の場としても大いに期待されている。

中学校舎増築工事

将来の募集定員増をにらんで進められていた中学校舎増築工事は、8月末に竣工。2階建てから3階建てになり5つの教室と1つの大教室が完成。増築により進路指導室・保健室が移転した。

進路指導室の移転

中学棟の増築にともない、進路指導室は、管理棟3階から中学棟1階へ移転。10月にオープンした新進路指導室は、移転前の倍近い面積で、生徒や先生が資料の閲覧が自由に出来る閲覧室を備え、赤本・青本・募集要項等が随時閲覧できるよう整備している。

またコンピュータも効率的に活用できるようになり、進学・就職・成績に関するデータが集められている。

保健室の移転

中学棟の増築により、保健室も管理棟1階から中学棟1階に移転。従来冷房施設がなく夏場の利用は大変であったが、移転によって解消された。また

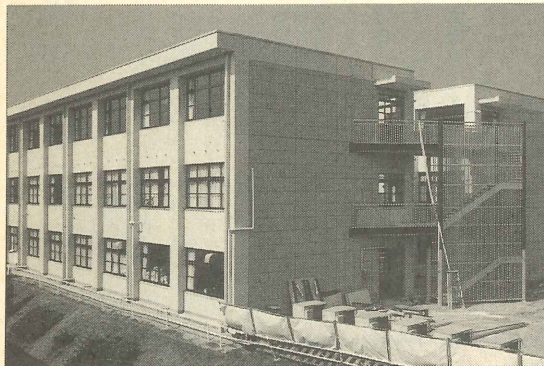
校舎の中央部に移転し、学校の保健センターとしても利用し易くなり、測定機器の使用が自由になった。

図書館・自習室の整備

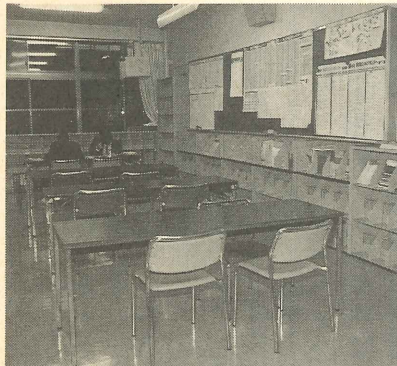
図書館は、7月にロッカーの設置、8月には閲覧室となりの自習室を整備するなど、施設の整備・充実につとめている。

自習室は、閲覧室となりに併設され、専用の衝立付き机（6人掛け）12台を設置して毎朝7時30分より生徒達に開

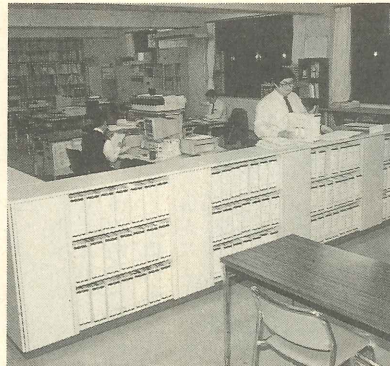
放している。始業前と図書館の閉館時間6時30分までの放課後開放され、冷暖房完備の部屋で自習できるため、図書館・自習室の利用者は増えている。毎朝、自習室の開放前には40〜50名の生徒が列をつくり、始業前の寸時を惜しんで勉学に励んでいる。



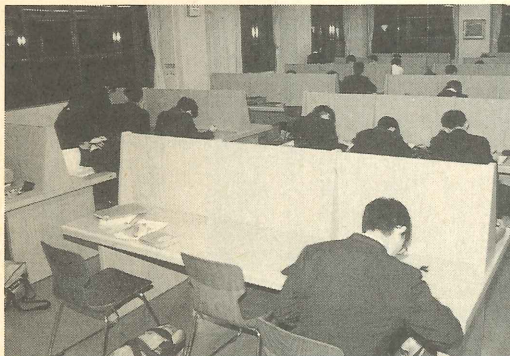
完成した中学校舎



新進路指導室閲覧室



新進路指導室



放課後の自習室



図書室

学園の国際化をめざす

二十一世紀を目前に世界は国際化時代を迎えている。わが国も経済成長により国際的地位の高まりとともに国際社会における役割も増大する中で、西大和学園では開校当初から教育の柱の一つとして「世界的視野の育成」を掲げ、国際人としての資質を養うことを目的に、さまざまな取り組みを展開している。

国際理解教育の一環として修学旅行を中学では語学研修旅行と称して中3の4月に米国でホームステイを、高校では海外探求旅行と称して、高1の3月に隣国の韓国を訪問。海外への旅行を実施している。平成3年からは帰国子女の受け入れも始め、5名の帰国子女が入学している。また8月21日より国際ロータリーの国際青少年交換学生としてドイツよりロバート・ホイッスマン君を迎え、学園の国際色は深まっている。

海外探求旅行〈高校〉

本校では、国際化時代に対応し、世界的視野の育成を図り国際人としての資質を養うことを目的として、高1の終わり3月に全員が「海外探求旅行」と称して海外への修学旅行を実施している。

まず隣国を理解することが必要と、天安門事件が起こるまでの3年間は、隣国であり、わが国の文化・社会に大きな影響を与え、今日も奈良とは友好関係にある中国へ出掛けた。「昭和の遣唐使」として、北京・上海・西安と三大都市を訪れ、西安では、西安交通

大学附属中学校と交流会を持ち、スポーツや文化を通して友好を深めた。しかし、天安門事件以後、中国への訪問は断念せざるを得なくなり、ここ2年間は隣国大韓民国を訪問している。釜山・慶州・扶餘・公州・ソウル等を見学。ソウルの宇信高等学校と交流会を行っている。

また慶州では、王寺RCの仲介で社会福祉法人「ナザレ園」を訪れ、身寄りのほとんどいない在韓日系老婦人たちを慰問するとともに、日韓の過去と現在を生徒たちに目を向けさせている。

語学研修旅行（ホームステイ）

〈中学〉

中学校では、国際化時代に対応するため特に英語を重視、外人講師による英会話授業を採用してヒヤリングやスピーキングの実力養成に努めている。その成果を試すべく中3の4月、全員が米国西海岸へ10日間の語学研修旅行（ホームステイ）を実施して成果を上げている。

これら世界的視野の育成のための国際理解教育は、本校創設者の田野瀨理事長が学生時代に体験した世界無銭旅行（33か国）に基づくもので、「若者たちに、その感性がまだ柔軟でナイーブなうちに、外国を経験させ日本と世界の将来について考える機会を持たせたい」という考えによる。



海外探求旅行 慶州／仏国寺

帰国子女の受け入れ

近年わが国の経済成長により日本の国際的地位の高まりとともに国際社会における役割が増大する中で、海外経験者である帰国子女への期待が寄せられるようになった。

本校では、そうした国際化時代のニーズに応えるため平成3年の高校入試から帰国子女の受け入れを始めている。帰国生としての資格・認定条件を満たしていれば、入試で理・社を除く国・数・英の3科と面接が課せられる。3年度は、アメリカ、イギリス、ドイツ、ギリシャ、インド、シンガポール、中国、台湾と世界各国の日本人学校から12名が受験、10名合格中5名が入学している。



語学研修旅行／ホストファミリーと

「楠本君帰国ロバート君来日歓迎会」

開催される

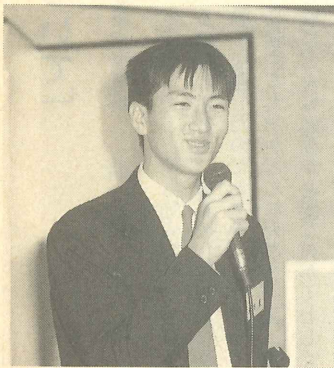
国際ロータリーの国際青少年交換学生として1年間ドイツへ留学し、8月に無事帰国した本校高2の楠本豊君と、その交換留学生としてドイツから来日、現在高1に在籍中のロバート・ホイスマン君の歓迎会が11月22日(金)法隆寺グランドホテルにおいて、王寺ロータリー・西大和学園合同で行われた。

歓迎会は、楠本君、ロバート君の歓迎のほか、これからロバート君がホームステイするホストファミリー間の交流および情報交換を目的として行われたもので、学園からは田野瀬理事長、森井校長、奈蔵教頭、松本事務局長、高1学年部長の平林先生等が出席したほか、クラスメイトとしてD組の小山君と黒木君が、ホストファミリーとして現在ホームステイ中の楠本ファミリーをはじめ、これからホームステイする吉岡、高山ファミリーも出席した。

席上、王寺RCの松井米蔵会長から「楠本君のドイツ留学は、当RCでは最初の青少年交換であり、西大和学園初代校長の故木村雅吉先生が、王寺RCの会員として青少年奉仕委員長をつとめられたときに蒔かれた種が今実を

結んだもの」と紹介。「楠本君は帰国後とてもしっかりした。ロバート君も日本語が随分上手になった。歓迎会を通じ交流を深めて下さい」と挨拶があり、続いて理事長が、楠本君には「貴重な体験を仲間にごんごん広めてやって欲しい」と述べ、ロバート君には「大変明るく行動的です。すでに学園の人氣者になった。1年間貴重な経験を積んでドイツに帰って欲しい」と激励した。

次に楠本君より帰国報告があり、「ドイツ人の生活は意外に質素。ドイツでは生活を楽しんでいる印象を受け、生活では日本は負けている」と率直に



楠本 豊君

ライフスタイルの違いを述べるとともに、「ドイツの学校は、生徒に多く発言させる教育で、成績も筆記試験より発言のウエイトが高く、生徒の自己主張も強い」と教育の違いにも触れた。

また「3か月経った頃からドイツ語がわかるようになって学校も楽しくなりました」と感想を語った。

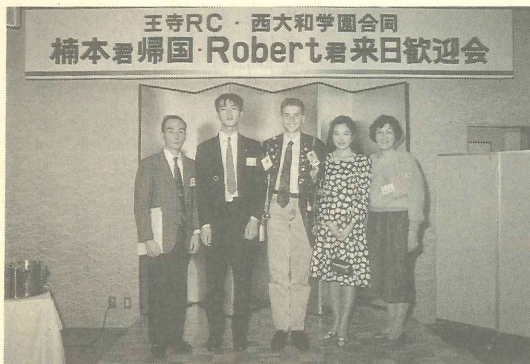


ロバート・ホイスマン君

ロバート君は、「今日は私のウェルカムパーティーにお集まり下さった皆さんありがとうございます」とまずお礼の言葉を述べ、「私のニックネームはロビーです」と自己紹介した。「日曜日は日本のあちこちを知るために時間があれば外出するようにしています」「学校の授業はちょっとわからへんことがありますが」「日本語を図書館で勉強しています」「予想より早く多くの友人を見つけることができました。学

校の生活は大丈夫です」と学校での生活を大阪弁を交えながら日本語で報告。「最初1年いることが不安でしたが、今ではできるだけ長くいたい」とうれしそうに語った。

食事・歓談の後、クラスメイトの小山君、黒木君からもロバート君について報告があり、和やかな雰囲気歓迎会は終了した。



歓迎会で楠本ファミリーと一緒に



「最近の推薦入試について」

進路指導部長 福井 士郎

大学入試がいよいよ目前に迫り、学校の中の空気も凜としている昨今です。高校3年間の努力を結実させようと高3生は最後の追いこみに全力をあげており、我々教師も彼らが目標を達成する為にあらゆる努力を惜しまない覚悟でおります。

来春の入試においては、18才人口がピークを迎えるものの浪人生が1万1千人程減少している為、今春をやや下回る119万1千人程になると予想され、定員が2万3千人程増えたことで、来春入試は今春より1万8千人ぐらいの入学者数の増加がみこまれており、数年続いた激戦入試も緩和の方向に向かっている。とは言っても依然として激戦の状態に変わりはない。

最近、推薦入試のことでよく生徒が相談に来る。「A大学を推薦で受験したいのだけれど、どんな勉強をしたらいいのかわからない。」「B大学で過去の推薦入試で出題された問題を見せたい。」等々……。

質問をしている生徒の真摯な眼差しに畏怖されながら応対していくのだが、話のやりとりをしているうちに、この

生徒がほとんど何も知らないで受験するのだと気付く。ほんの10日程前に受験を決意したのだと言う。したがって受験する大学がどんな大学か、又、受験にどんな勉強が必要なのか、わしくは知らないらしい。合格したらどうするのかと聞くと、その大学に入学したいと言う。どこの高校でもよくある光景だが私は何か釈然としないものを感じた。」

推薦入試は最近、国公立どの大学でも拡充をはかっている。私立大においては定員の40〜50%を推薦でとる大学も多く、実質、推薦入試と一般入試の2回受験できると考えたほうがよい。しかもいろんな意味で推薦入試のほうが合格しやすい傾向にある。ならばもっと早期に(高3の5月ごろ)受験する大学の出題傾向等を研究しておき、対策をたてておけば、はるかに合格する確率は高くなっているのである。推薦入試に過大な期待をもつのは良くない。しかし、推薦であるうが一般であるうが合格すれば同じことなのである。高校入学後、大学受験に向けて様々な勉強をしてきた事は決して無駄に

はならないと思うが、一般入試に対して向けた努力の何分の一、いや何十分の一くらいは努力は推薦入試を受験しようと思っている生徒は払うべきだと思う。又、そういった勉強をすることによって、より幅広い知識が得られ、現代の世界がかかえている問題を意識でき、あるいは、自分の将来を決定づけることになる、興味ある対象を発見する契機となるかもしれません。

同和教育

私学同推協

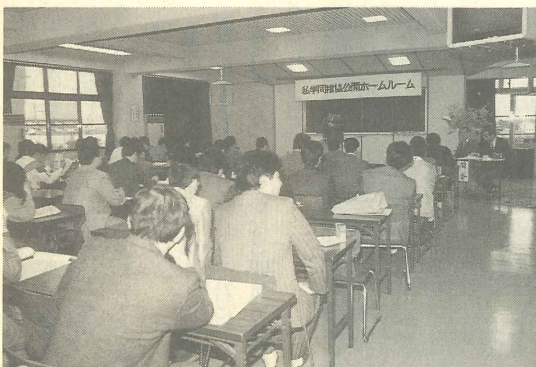
公開ホームルーム開催される

11月14日(木)本校に文書学事課長をはじめ事務局・推進委員等67名の先生方をお招きして私学同推協公開ホームルームが開催された。

公開ホームルームは、年間計画に基づいて取り組んだ研修会・同和教育講演会・ビデオ・映画を通して学習した同和教育の実践発表の場として実施され、テーマも入学して間もない中1では「仲間づくり」を、卒業を間近にした高3では「就職差別」や「結婚差別」の問題を取り上げるなど、学年に応じた内容だけにとどまらず「障がい児(者)差別」「識字問題」「在日朝鮮人差別」「いじめ」と「人権」「被差別部

落の歴史」など広範囲におよんだ。ホームルームの形式もグループ(班)別や机を円形に並べて討議するクラスもあり、担当が工夫して作成した資料を基に50分のホームルームは熱心に進められ、さまざまな差別や人権侵害に対する正しい認識を深め、一人一人が問題意識をもって取り組まなければならない問題であることを理解した。

公開ホームルームの後、四分散会場に別れて研究協議に入り、参加者による担任への質問と感想が述べられ、それぞれの会場で研究協議が行われた。最後に多目的ホールで各分散会のまとめを発表して終了した。

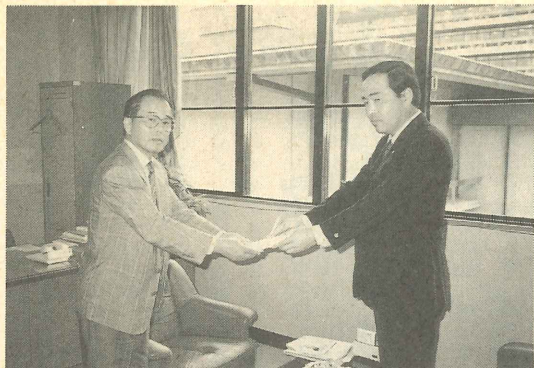


各分散会のまとめを発表 (多目的ホール)

育友会

西大和学園育友会 雲仙被災者に義援金贈る

西大和学園育友会は、第5回文化祭で長崎県雲仙普賢岳噴火の被災者に対する義援を目的としたチャリティーバザーを実施、その売上金の全額649,198円を援金義として日本赤十字社を通じ被災者に贈るため、9月25日(水)下城園会長は日本赤十字社奈良県支部を訪れ、藪田事務局長に手渡した。



藪田事務局長に手渡す下城会長

育友会「会員の集い」開催される

例年「会員の集い」は、全学年が一堂に会して行われてきたが、今年から全員参加の「会員の集い」をめざして中学を除く高校は各学年別に行われ、計4回(別表)の集いが開催された。各学年別に行われた結果、全体で702名が出席。内容的にも学年の個性が出て、共通の話題を通して会員相互の親睦がより深められた。

第一部では学年部長や担任による講演が行われ、出席者は熱心に聞き入っていた。第二部の懇親会では食事をはさんで歌やゲームに和気あいあいな雰

学年	日	時	場	所	出席者数
高	3年	7月19日(金) 16:00~	奈良県	新公会堂	167名
	2年	11月8日(金) 16:00~	都	ホテル大阪	166名
校	1年	11月1日(金) 16:00~	都	ホテル大阪	187名
中学全	10月25日(金) 17:00~		都	ホテル大阪	182名



「高1 会員の集い」

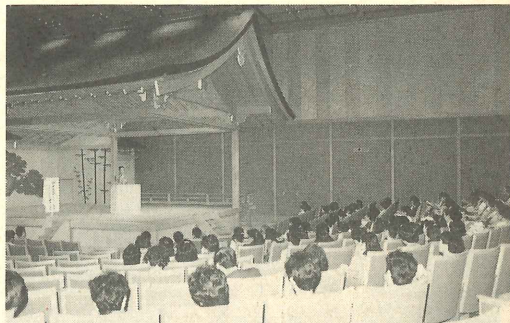


講演に熱が入る平林先生

囲気の中で楽しい一時を過ごして終了した。



「高2 会員の集い」壇上で歌う先生方



能楽堂で行われた「高3 会員の集い」

行事

ここには、4月から9月までのおもな行事を列挙し説明をつけたが、スペースの関係で割愛したものもある。

〔4月〕

□入学式

平成3年度の入学式は、中学校が4月5日、高校が4月6日に挙行され、難関を突破した新入生は、希望に胸ふくませ決意を新に学園生活がスタートした。

今年、中学は募集定員より一クラス多い134名が四期生として入学、高校も英数・普通コース・中学校・高等部合わせて457名が六期生として入学した。

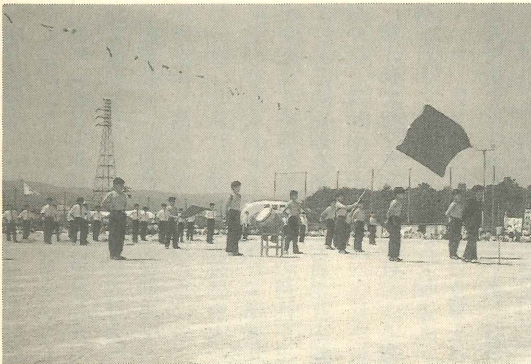
□語学研修旅行（ホームステイ）

中3になったばかりの二期生90名が4月10日から19日までの10日間、第二回語学研修旅行として米国西海岸を訪れ、サンフランシスコで4日間のホームステイを体験した。その後ロスアンゼルスへサンタモニカ海岸、ユニバーサルスタジオ、グランドキャニオンやデイズニールランド等を見学して無事帰国した。

〔5月〕

□体育祭

行事の充実と保護者の参加を考慮して今年体育祭は5月26日(日)実施された。晴天に恵まれ日曜日ということでも保護者の出席も多く、生徒達も競技や応援にエネルギーを炸裂させ、保護者席からは最後まで熱い声援が送られた。中学は今年から4色の色別対抗となり4枚のデコレーションも登場、「応援合戦」も加わった。高校の競技でも「あっちこっち丁稚」や「葛城連峰」という新種目が生まれた。



体育祭「応援合戦」

〔7月〕〔8月〕

□富士登山

中学1・2年22名は富士登山を実施し7月29日出発、途中トヨタ館を見学して浜名湖館山寺温泉で一泊。30日登呂遺跡、白糸の滝を見学し五合目から八合目まで登山、翌日好天に恵まれ全員が登頂を果たした。31日下山途中、七合目付近で落石により生徒2名が負傷

2名のうち一人は自力で下山したが、中1の川田真左君が左額部に5cmの裂傷を負ったため、安全指導センターの適切な処置により担架で下山、山梨赤十字病院に入院した。8月1日川田君を残し、全員がまかいの牧場見学後帰途についた。川田君は、精密検査の結果幸い異常がなく8月2日帰宅した。

□夏期勉強合宿

「日頃の家庭学習を反省し、友人の勉強方法を参考にして自分に適した勉強方法を発見することを目的」に、高1457名は、長野県茅野市の白樺湖畔にある白樺湖レイクサイドホテル山幸閣で7月30日から8月3日までの5日間にわたって夏期勉強合宿が行われた。勉強合宿は、朝8時30分に始まって夜11時まで、授業は国・数・英の3教科で120分の4コマ、自習を入れると1日8時間以上のハードスケジュールで成果を上げた。

〔8月〕〔9月〕

□文化祭

第五回 西大和学園文化祭は、「eat it Heart 一心はいつも8ビーター」をテーマに、河合町の「手をつなぐ母の会」の方々を招いて8月31日(土)、9月1日(日)の両日にわたって行われた。

例年通り校舎内の庭は、模擬店で埋めつくされ、タコ焼、お好み焼き、焼きソバ、かき氷、ジュース、餅といった食べ物が多く、校舎内にも喫茶店やカラオケも登場して大変にぎわった。3階の作法室では茶道部による恒例の「お茶会」が催され、体育館では弁論大会や吹奏楽の演奏、ミュージカルや劇が行われた。

展示部門では、マンガイラスト研、写真部、地理歴史研究部も発表され、ビデオによる映画を製作するクラスもあり、中学の「おもしろ作品展」も人氣があった。

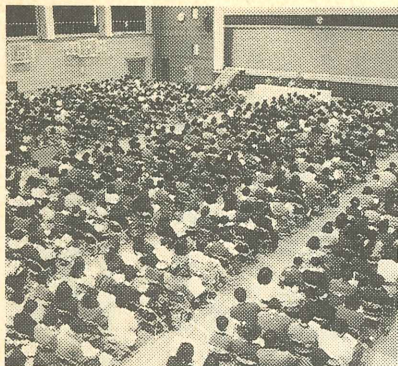
育友会も雲仙普賢岳の被災者への義援のためのチャリティーバザーを実施し、長蛇の列ができるほど盛況でその売上金の全額649,198円は義援金として日本赤十字社を通じ雲仙の被災者に贈られた。



第一回「入試説明会」開催
1000名を越す出席者

11月17日(日)第一回保護者と生徒のための入試説明会が体育館において開催された。午前10時から行われた高校、午後2時からの中、いずれの説明会も1000名を越す予想外の出席者に説明者もつい熱が入って説明が終わるごとに拍手が起こるほど会場の雰囲気は盛り上がった。受験をひかえ出席者は二時間にわたる説明に熱心に聞き入っていた。

第二回説明会は、12月8日(日)午前から高校、午後から中、いずれも体育館で開催される。年々私学に対する関心が高まるなか、平成4年度高校入試では内部進級と14・4%の高い戻りの関係でさらに狭き門となる。



第1回入試説明会(中学校)

平成4年度 中学入試
135名に定員増!

中学校の募集定員が平成4年度入試から一クラス増えて135名となり、やや広き門となる。

かねてより急増する中学受験のニーズにこたえるため、定員増の申請をしてきたところ、11月12日付で認可された。「募集要項」はすでに90名となっていたが、認可により平成4年度から135名の募集を行う。

平成4年度 募集要項

	中 学	高 校
募集人員	男子 第1学年 135名	男・女 225名(婦女子女含む) 英数コース90名・普通コース135名
出願期間	1月13日(月)~14日(火) 午前9時~午後4時	1月25日(土)~1月28日(火) 日曜日除く 午前9時~午後4時
試験期日	1月19日(日)	2月2日(日)
試験発表	1月24日(金) 本校午前10時より掲示	2月7日(金) 本校午後2時より掲示
試験科目	国語・算数・社会・理科	国語・社会・数学・理科・英語 (備) 国語・数学・英語・面接

石川国体 秋季大会

卓球・成人男子

二部 準優勝

新保久俊先生大活躍!



石川県下を舞台に熱戦が繰り広げられた第46回国民体育大会「石川国体」秋季大会で、本校社会科教諭の新保久俊先生が卓球の成年男子二部に主将として出場、予選リーグはトップで通過するなど善戦し決勝に進んだが、決勝で神奈川に敗れ惜しくも準優勝となった。

十七日最終日、二部は前日の予選で四勝のトップで通過、決勝に進んで神奈川と対戦。新保が神奈川の秋田を2-1と先勝したものの後続がいずれも敗れ、3-1で惜しくも優勝をのがした。国体で成年男子二部が決勝まで進んだのは今回が初めて、奈良卓球界では快挙といえる活躍だった。

新保久俊先生は同志社大学時代、卓球部キャプテンを務め、卒業後も社会人大会等でチャンピオンとなるなど目覚ましい活躍後、昭和61年本校に奉職。現在、社会科教諭、卓球部顧問として活躍中。



文化祭



富士登山

告知板

西大和学園振興会の結成

「本学園の振興発展に寄与するとともに会員相互の親睦を図ることを目的」に育友会ならびに学園職員で組織する西大和学園振興会が発足する。

振興会の結成については、すでに育友会役員会で決定され、12月7日(土)育友会本部役員OB、現本部役員等による第一回準備委員会が開催される。第二回委員会は平成4年1月6日(月)、総会は3月29日(日)に開催予定。

第一回 同窓会総会の開催

西大和学園高等学校の第一回同窓会総会が、新設された学園食堂で来春3月28日(土)に開催される。

総会開催にさきがけ第一回幹事会を12月21日(土)午後3時より、第二回幹事会は1月6日(月)午後2時より開催予定。関係者一同、発会にむけ多数会員諸氏の出席を期待している。

道場開き

現在、体育館東隣りに年内完成をめざして急ピッチで工事が進められている柔剣道場の道場開きが1月25日(土)に決定され、関係者多数を招き盛大に行われる。

完成すると上壇をもつ本格的な道場として県下で最大規模となる。

平成4年1月にオープンする新学園食堂の愛称を公募します。ふるって応募下さい。
事務局

西大和学園学生寮のご案内

(抄)

オープン時期 平成4年4月
収容人員 男子156名
施設

2、4人部屋19室(高校生向き)
10人部屋8室(中学生向き)
学習室、談話室、ホール、事務室、大浴場、洗濯室、教員宿直室、舎監室、寮母室、その他(食堂は学生食堂を利用)

費用(予定)

時	入寮費	30,000円
寮	補償金	100,000円
入	寮債	300,000円

月	毎	寮費	79,000円
		(食費、人件費、光熱水費、消費税等を含む)	

入寮申し込み

中学校、高等学校共、入学予定者説明会のときに入寮申し込みをして下さい。書類審査の結果、校長が入寮許可します。(本校に通学することが、充分可能であると認められる場合、入寮許可しない場合があります。)

日課表(予定)

平日		日曜日	
起床	7:00	起床	8:00
点呼・清掃	7:00~7:30	点呼・清掃	8:00~8:30
朝食	7:30~8:00	朝食	8:30~9:10
登校完了	8:10	自由時間	9:00~18:00
入浴	17:30~19:30	入浴	17:30~19:30
夕食	18:00~19:10	夕食	18:00~19:10
学習	19:40~21:10	学習	19:40~21:10
休憩	21:10~21:30	休憩	21:10~21:30
学習	21:30~23:00	学習	21:30~23:00
点呼	23:05	点呼	23:05
消灯	23:20	消灯	23:20

その他

* 部屋は原則として、中学生は大

部屋(10人以内)、高校生は小部屋(4人以内)とし、横割り(1部屋に同学年が入る)とします。適時部屋替えもする予定です。

* 寮費に含まれる食費は朝食と夕食です。昼食は各自学生食堂でお願いします。

* 寮内は寮長及び舎監が24時間体制で管理します。

* 学習時間は中学生(大部屋使用者)は学習室で、高校生(小部屋使用者)は各自室で、当直の本学園教師の監督のもとで自習を行います。

* 洗濯は原則として、小物以外は寮職員が行います。

編集後記

『西大和学園報』創刊号が発行された。題字は、本校書道科教諭の杉崎先生が揮毫されたもので、後漢の隸書の典型ともいえる「曹全碑」の書風によって書かれ、「学」の字もそれに習い、あえて旧体で書かれている。

この『学園報』は、年2回の発行を予定しているため、次号は平成4年5月頃に発行予定。常に時機を得た話題内容を持ち、「学園情報」を満載した「校務報」となるよう心がけたい。